

弘前大学医学部附属病院で診療を受けられた皆様へ

当院では下記の臨床研究に用いるため、患者さんの試料・情報を利用させていただいておりますので、お知らせいたします。

研究課題名： ベンゾジアゼピンを用いた ACTH 依存性クッシング症候群の
 診断能の検討

研究の目的

副腎という臓器から「コルチゾール」というホルモンがたくさん分泌される病気を「クッシング症候群」といいます。クッシング症候群のうち、「ACTH」(副腎皮質刺激ホルモン)というホルモンが腫瘍からたくさん産生された結果、コルチゾールも多く作られてしまう病態を「ACTH 依存性クッシング症候群」といいます。一方、「偽性クッシング症候群」は、腫瘍が存在しないにもかかわらず、不眠症やストレス、肥満などが原因で ACTH がたくさん分泌される病態です。二つは治療方法が全く異なるのですが、非常に似ている検査結果となることが多く、鑑別診断に難渋することがあります。この二つを正確に見分けるために、新たな検査方法の確立が望まれています。

私たちは、不眠の時に使われるベンゾジアゼピンという薬が、体内で自然に分泌されている ACTH を低下させるという現象に着目しています。そこから、腫瘍からホルモンが出ている「クッシング症候群」ではこの薬を内服しても ACTH は低下しないのではないかという仮説を立てました。この研究は、その仮説が正しいかを検証するために、高 ACTH 血症の方が睡眠薬を飲んだときの ACTH とコルチゾールの値を調べます。

研究実施期間： 実施許可日 ~ 2025 年 12 月 31 日

対象となる方： 2014 年 4 月 1 日 ~ 2022 年 3 月 31 日までの間、附属病院内分泌代謝内科に高 ACTH 疑いの精査のため入院し、不眠に対してベンゾジアゼピン系抗不安薬を内服した方。

利用させていただきたい試料・情報について

(他機関に提供する場合、提供先機関の名称及び当該機関の研究責任者氏名含む)

当科に高 ACTH 疑いの精査のため入院したことがある患者様のカルテ情報を参照します。具体的にはベンゾジアゼピン不眠薬内服下あるいは非内服下での ACTH とコルチゾールの採血、採尿データを参照します。それにより、「腫瘍から ACTH が分泌されている場合はベンゾジアゼピン内服下で ACTH やコルチゾールの値は下がらない。反対に、偽性クッシング症候群では下がる」ことを明らかにします。

なお、利用に当たっては氏名、住所、電話番号、患者番号等個人を特定できる情報を削除し、本研究のための固有の番号を付して(これを匿名化といいます)行います。

研究成果については、学会発表や論文投稿等の方法で公表されますが、その内容から対象者個人が特定される事はありません。研究から得られた個別の結果については原則としてお答えしませんが、希望される方は下記連絡先までご連絡ください。

本研究課題について、より詳細な内容をお知りになりたい場合や、試料・情報の利用に同意いただけない患者さん/その代理人の方は、以下の連絡先までご連絡ください。

研究への利用に同意いただけない場合、当該患者さんの試料・情報については対象から除外します。ただし、連絡いただいた時点で既に研究成果公表済の場合は、該当者のデータのみを削除する等の対応は出来かねますので、ご了承願います。

本件連絡先	内分泌内科，糖尿病代謝内科 准教授 高安忍 連絡先電話番号 0172-39-5062 Email stakayas@hirosaki-u.ac.jp
-------	---